

関門海峡と馬関戦争

民の苦衷

源平合戦、幕末の攘夷戦など日本史の歴史的事件が関門海峡を軸に展開された。幕末の攘夷戦では長州藩と欧米4か国との戦い、その後幕府の長州攻めが展開され、逆に長州側が海峡を越えて幕府に従う小

倉藩攻めを行う事態に。これが幕府滅亡、明治新政の引き金ともなった。その渦中、民は苦衷にあえいだ。今、そんな海峡の歴史、魅力を見直す動きも始まっている。文久3年(1863)5月11日未明、

以後も6月上旬までオランダ、アメリカ、さらにフランスの軍艦との砲撃戦が続ぎ、双方に多大な死傷者を出した。特に6月5日のフランス東洋艦隊は先のキンシャン号砲撃への報復もあつて陸戦隊が下関に上陸して前田砲台を破壊、周辺民家や寺を焼亡させる事態までになった。

背景に関門海峡の国際航路化

なぜ、この海峡で戦乱が生じたのか。時の江戸幕府は嘉永6年(1853)、アメリカと日米和親条約を締結、続いてイギリスなどと通商条約も結び、中国と日本を結ぶ通路の関門海峡は国際航路化が進みつつあった。そんな状況下で沿岸各藩に無断で長期停泊して物資を求めたり上陸するなどの不法行為が常態化。時の朝廷(孝明天皇)の意思もあり国内に攘夷を求め、機運が高まった。幕府は文久3年5月10日を期して攘夷決行を布告。翌11



前田砲台を占拠したイギリス軍(下関市立歴史博物館提供)

門司区田野浦湾で海流の潮待ちしていたアメリカ商船ペンブローック号を長州藩軍艦と下関の同藩砲台が砲撃、ペンブローック号はマスト破損で済んだものの驚愕し周防灘へ逃れた。長州藩による攘夷第一弾だった。同23日、やはり海峡を通過中のフランス軍艦キンシャン号も長州側からの砲撃に遭い、フランス側は書記官をボートで長州との折衝に向かわせたものの、そのボートも攻撃されて水兵4人が死亡する事態が発生

幕府攻め役
しかし逆に敗退

この戦いは6月7日の瀬戸内の大島口を皮切りに、小倉口では同17日から始まった。長州は軍艦3隻が田野浦、2隻が



フランス水兵戦死者慰霊碑で行われたメモリアルコンサート(2021年9月26日)

門司浦に迫って砲撃。長州報国隊、奇兵隊が上陸して田野浦の小倉藩本陣に乱入し、人家と田野浦港の係留船約200隻を焼き払い、砲台を破壊した。田野浦在住の郷土史家石井孝昭さん(79)によると、長州藩側は同地では遊女屋3軒を残して周りの人家137戸、寺、神社全てを焼き払ったという。住民は「外国からさえ焼かれんものを、隣の者から焼かれてしまう」と嘆いた。

当初は小倉藩と熊本から支援に来た肥後藩兵で戦ったが幕府軍、海軍の支援はなかった。將軍家茂の急死で幕府指揮者小笠原長行が暗黙のうちに小倉の本営を抜け出して支援の各藩兵も引き揚げ、長州側に圧倒される展開に。小倉藩は間もなく小倉城を自焼して香春に去ることになった。

民の苦衷は長州藩側でも同様であった。中でも4か国連合艦隊からの砲撃にさらされた下関・前田砲台周辺住民の証言。「外人が皆上陸して台場、民家を焼き、当時70才ばかりの老人は自宅前に掘った穴に避難していたのが黒人に突かれて死に、病気で自宅の近所に隠れていた30歳代はそのまま病死しました」と。同所ではまた萩、長府藩員計19人が死んだともされる。作家古川薫氏はその著「幕末長州藩の攘夷戦争」で、「下関戦争が、維新史に「転機を与える事件であり、重大な意義を持ち得たことは疑うべくもないが、同時にそれだけの犠牲を民衆に強いたという事実を忘れてはなるまい」と記した。同じことは小倉藩側からも言える。

北九州市立自然史・歴史博物館の守友隆学芸員は言う。「戦争で小倉から多くの

日の長州による米商船砲撃となった。6月8日の高杉晋作による奇兵隊結成は、一連の砲戦攻防で大打撃を受けた戦力の復興を図つての長州藩主の意図による。元治元年(1864)、イギリス公使オールコックが「長州問題に進展がなければ英仏蘭米4か国連合で長州を攻撃する」と通告。8月5日、4か国の軍艦、商船計17隻、兵員約5000人で海峡に來襲した。以後、長州藩と砲撃戦を展開、6日には陸戦隊が下関の前田に上陸、砲台を占拠、破壊した。この戦いでは長州藩側に死者18人、負傷者29人、連合艦隊側にも死者12人、負傷者50人が出たとされる。最終的には9月、幕府が賠償金300万ドルを4か国連合側に払う約定で終結したが、幕府の長州藩への憎しみは募り、慶応2年(1866)6月、幕府による長州再征(幕長戦争、四境戦争ともいう)の引き金になった。

文化財が持ち去られるなど双方に未だ確執が残っているが互いの友好、交流は深く関係はいい。あえて対立をおおる必要はありません」と。その関係を象徴するものの一つが昨年、北九州、下関で開催された「馬関戦争1864メモリアルコンサート」。関門エンターテイメントプロジェクト(牟田裕さん制作企画)による関門海峡の歴史を活かした野外コンサートで、北九州では門司区めかり公園のフランス水兵戦死者慰霊碑前で上演、訪れた人を魅了した。「これまで埋没していたものに光を当てたいとの思いで初めて企画しました」と牟田さん。海峡に新たな光が生まれている。

今回の歴史文化塾は感染予防のため中止致します。